

2022 年 4 月 21 日開催

## ゲーム障害と併存症

館農 勝(さっぽろ悠心の郷・ときわ病院)

アルコールや薬物といった物質依存には様々な精神疾患が併存することが知られているが、ギャンブル依存に代表される行動嗜癖においても同様である。インターネットの普及により、ネット依存が大きな社会問題となっているが、とりわけ思春期の男子においてはゲームを目的としたネット過剰使用が多く、2022 年 1 月に正式発効した ICD-11 にゲーム障害が収載されたことから関心を集めている。このゲーム障害にも様々な併存症がみとめられる。

うつの有病率は、小学校高学年から中学生を対象とした学校調査で 10～15%程度と言われており、高校生ではさらに高いと言われている。対象総数が 15,148 名にもものぼる 92 の研究報告を詳細に解析した Ostinelli E et al. の論文 (2021) では、ゲーム障害のおよそ 3 人に 1 人がうつ病を併存していることが報告されている。

注意欠如多動症 (ADHD) は、ゲーム障害との関連性が最も高いと言われており、Dullur P et al. (2021) は、これらに関する 1,028 編の論文のうち厳しい条件を満たした 29 編 (対象総数 56,650 名) を対象に系統的レビューを行い、ADHD 症状は一貫してゲーム障害と関連しており、とりわけ、不注意症状がゲーム障害と関係していたと報告している。ゲーム障害と ADHD に関しては、形態画像と機能画像を組み合わせた脳画像研究においても両者に共通して前頭前皮質に有意な所見を認めており、共通した病態基盤が存在する可能性が指摘されている (Gao X et al., 2021)。

自閉スペクトラム症 (ASD) は、社会性およびコミュニケーションの障害、常同反復行動を中核症状とする発達障害で有病率は 2～3%とされている。ネット依存度をみる自記式スケール・IAT を用いた So et al. の研究 (2017) では、児童精神科を受診した中学生において ASD ではおよそ 1 割がネット依存であり、ASD に ADHD を併存すると 2 割がネット依存であったとされている。ASD は女子よりも男子に多く、この年代の男子の主たるネット使用目的がゲームであることを考慮すると、ASD では健常対照に比べてゲーム障害の有病率が高いと言える。

演者らが、2021 年に児童青年精神医学会認定医を対象にゲーム・ネット依存に関する調査を行った際に併存症についてたずねたところ (回答者数 159 名、回答率 38.4%)、最も多い併存症として ASD をあげたものが 66 名、ADHD が 64 名で、3 番目に多かったうつ病の 8 名を大きく上回り、児童精神科の実臨床においても、ゲーム・ネット依存には発達障害の併存が多いことがわかった。

ゲーム障害の併存症は、発症リスク因子でもあり、長期化要因でもあるため、その診断と疾患・障害に応じた介入が必要となる。また、発達障害を併存した場合には、依存状態が重症化・長期化

しやすいため、早期発見、早期介入も重要である、ゲーム障害からの回復にはゲーム以外の時間を増やすことが重要であり、デイケアや治療キャンプの有用性も報告されているが、社会性の障害のために集団への参加が苦手である ASD では、グループ活動への参加が困難な場合も少なくない。発達障害を併存したゲーム障害では、視覚支援や構造化といった ASD への支援の基本、ペアレントトレーニングなどの ADHD に有効とされる家族支援が、時には有効である場合もある。不登校の子どもたちを支援するための社会資源や培われた経験が、児童思春期のゲーム障害の支援に有効であるかもしれない。